

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	学校と家庭の連携による良好な生活習慣の定着	所属	教育課	SDG s	4・11
事業（細目）名	森のようちえん支援事業	事業番号	1979		
総合計画	基本理念	I 森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	②仕事	事業番号	5	連番

R3年度

Goal(目標)	自然環境を活かした保育の推進と、智頭町らしい特色ある子育て事業を支援する。
Plan(事業概要・計画)	<p>(1) 保育料の軽減・無償化制度の周知⇒通園児のいる家庭の経済的負担の軽減⇒保育環境の選択肢の増加</p> <p>(2) 森のようちえんの運営に対しての補助⇒地域資源を活用した保育を実現⇒地域特有の魅力の創造</p>

R3年度

Do(実行)		R3 実績額	8,779,000円			
活動実績を示す指標		単位	R2(実績)	R3(計画)	R3(実績)	対前年比(%)
①	保育料軽減補助金を活用した園児数	人	4	4	2	50%
②	保育料無償化制度を活用した園児数	人	12	12	12	100%
③	園児数に応じた運営に対する補助金交付	人	15	16	16	107%
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・森のようちえん通園家庭への説明及び資料送付の実施。 ・森のようちえん運営と連携し、保育料軽減・運営支援補助金の交付。 					

R3年度

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・保育料無償化制度の認識が広がり、制度を利用して家庭の経済的負担が減った園児が増加。 ・全国一律の保育料無償化制度など智頭町外でも保育料軽減が受けられるようになり、町内在住の入園希望者及び入園を目的とした移住希望者も智頭町以外の選択肢が増えている。 					

R3年度

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由： 団体への運営補助により活動を維持している。				

R3年度

Action(改善)	
R3実施内容の改善及び見直しの上、R4の方針・計画	<ul style="list-style-type: none"> ・保育料無償化制度を利用する園児に必要な保育認定の認定方法・基準をより明確に行う。 ・園の特性を活かした育成と就学に向けた準備について協議を重ねる。

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	地域おこし協力隊事業	所属	企画課	SDG s	8、10
事業（細目）名	地域支援推進事業	事業番号	2021		
総合計画	基本理念	I 森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	2	連番

R3年度

Goal(目標)	智頭町での地域おこし協力隊を希望し、智頭町の発展を願う意識の高い地域おこし協力隊が柔軟に活用できる予算の確保と同時に、町民と行政の中間支援組織となるための事業を行う、さらに協力隊卒業後の起業に対し補助する。
Plan(事業概要・計画)	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域おこし協力隊に応じた予算の確保 ・協力隊卒業業者への起業支援

R3年度

Do(実行)	R3実績額					25,621,190円
活動実績を示す指標		単位	R2	R3(計画)	R3(実績)	対前年比(%)
①	協力隊起業支援事業費補助金交付件数	件	1	1	1	100%
②	地域おこし協力隊数（3月末時点）	人	5	5	7	140%
③						
実施内容		<ul style="list-style-type: none"> ・協力隊卒業業者への起業支援が1件（農作業に必要な備品等に対し補助） ・各地域おこし協力隊の活動に対する柔軟な予算編成の実施 ・協力隊向けの研修等を紹介した。 				

R3年度

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		<ul style="list-style-type: none"> ・起業補助を行うことで、任期満了の協力隊が智頭町で起業し、定住に繋がった。 ・活動経費の弾力化など、個人のスキルに応じた予算編成を行った。 ・協力隊同士の仲間づくりの働きかけが出来ていない。 				

R3年度

評価	B
----	---

方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
----	----	------	----	----

担当課長評価

評価	
----	--

評価理由：	
-------	--

R3年度

Action(改善)	
R3実施内容の改善及び見直しの上、R4の方針・計画	<ul style="list-style-type: none"> ・R4年度も引き続き協力隊の起業支援を行い、定住に繋げる。 ・引き続き各協力隊の担当者に協力隊とのコミュニケーションを取るよう働きかける。 ・協力隊同士の繋がりを深めるきっかけの提供が必要。

第7次総合計画進行管理検証シート(※連番52、92を統合)

事業名	商店街との協働・連携による活性化	所属	企画課	SDGs	8
事業(細目)名	地方創生推進事業	事業番号	2032		
総合計画	基本理念	I 森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	3	連番

R3年度

Goal(目標)	かわらまち商店街、サービス商店会と協働し商店街の再生とにぎわいづくり及び魅力化を進める。
Plan(事業概要・計画)	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街のにぎわい創出。(新規出店者の増加) ・まちのコインの活用。 ・ちづみちエリアリノベーション事業との連携。 ・横の関係各機関との連携強化。 ・智頭農林高校との連携による商店街店舗の活用(ちのりんショップ)

R3年度

Do(実行)	R3実績			1,000,000円	
活動実績を示す指標	単位	R2	R3(計画)	R3(実績)	対前年比(%)
① 商店街近辺における新規創業数	件	1	1	0	0%
② 智頭を元気に！とくとくすぎっこカード事業	円	-	1,000,000	1,000,000	-
③ ちのりんショップの開催	回	6	8	8	133%
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・智頭を元気に！とくとくすぎっこカード事業の実施 ・新型コロナウイルスによる売り上げ減少への支援。 ・ちづみちエリアリノベーション事業との連携 ・かわらまち商店街でのちのりんショップを数回開催。 				

R3年度

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象(者・モノ)、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方(手段、内容、負担)は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響で商店街主催で実施するイベントが中止になっており、にぎわい創出をどの様に行うかが課題。 ・令和3年度実施した「Be Local～ちづの日常」をモデルに、まちのコインとの連携も行いながら商店街と町民とが繋がる事が出来る機会を今後も創出していく必要がある。 					

R3年度

評価	B
----	---

方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
----	----	------	----	----

担当課長評価

評価	C
----	---

ちづみちエリアリノベーション事業も実施しているが、商店会のにぎわい創出には充分評価理由： 分に至っていない。今後も引き続き連携する必要はあるが、商店会のモチベーションも重要である。
--

R3年度

Action(改善)	R3実施内容の改善及び見直しの上、R4の方針・計画
<ul style="list-style-type: none"> ・R4年度も引き続き各種関係機関と連携し、コロナで被害を受けた店舗等への補助施策を行う。 ・来年度は、商店会の自主性を伴った継続的な事業を行う必要がある。 ・今年度開催した「Be Local～ちづの日常」のようにイベントをフックにしたにぎわいの創出策を模索していく。 	

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	林道維持管理事業	所属	地域整備課	SDG s	15	
事業（細目）名	林道維持管理事業	事業番号	1158			
総合計画	基本理念	森の恵みを生かしたまちづくり				
	視点	②仕事	事業番号	4	連番	5

R3年度

Goal(目標)	町有林道等の適切な維持管理。
Plan(事業概要・計画)	<ul style="list-style-type: none"> ・町管理林道等の適切な維持管理を行い、利用者の安全を図る。

R3年度

Do(実行)	R3実績額					25,448,090円
	活動実績を示す指標	単位	R2	R3(計画)	R3(実績)	対前年比(%)
①	修繕費・手数料・工事請負費	千円	9,466	13,503	25,448	269%
②						
③						
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・経年劣化、豪雨等被害による道路、法面等修繕（宇波竹之下線、沖ノ山線、中ノ津線、八頭中央線外） ・経年劣化、豪雨等被害による舗装修繕工事、災害応急工事（宇波竹之下線、沖ノ山線） ・民営林道修繕支援（北谷線、ワラビオ線外） ※智頭町森林組合管理林道 					

R3年度

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・修繕等の実施により、木材の搬出など本町基幹産業である林業の振興に寄与した。 ・経年劣化や度重なる豪雨により、対応すべき箇所が増加傾向にあり、その予算確保に苦慮している。 					

R3年度

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由： 事業費削減のため、定期的な点検や維持作業が必要あり。				

R3年度

Action(改善)	R3実施内容の改善及び見直しの上、R4の方針・計画
	<p>従来の修繕に加え、大規模災害未然防止を目的とした林道維持作業を事業化。 森林施業、観光ルートとして利用が盛んな路線を重点的に修繕等を行う。</p>

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	公共林道事業	所属	地域整備課	SDGs	15
事業（細目）名	公共林道事業	事業番号	1159		
総合計画	基本理念	森林施業の基盤となる林道の整備			
	視点	②仕事	事業番号	4	連番

R3年度

Goal(目標)	森林施業の基盤となる林道の整備。				
Plan(事業概要・計画)	林道橋について、PCBの含有量調査を行う。				

R3年度

Do(実行)	R3実績額		62,056,100円			
	活動実績を示す指標	単位	R2	R3(計画)	R3(実績)	対前年比(%)
①	PCB含有量調査橋梁数	路線	0	2	3	-
②	林業専用道宇波竹之下線整備工事	〃	1	0	1	100%
③	林道穂見山線舗装工事	〃	1	0	1	100%
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上滝橋、乳尾橋、林道沖ノ山線1号橋の塗膜のPCB含有量調査を実施。 ・ 林業専用道宇波竹之下線の法面保護工を実施。（R2繰越事業） ・ 林道穂見山線の舗装工を実施。（R2繰越事業） 					

R3年度

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上滝橋、乳尾橋、林道沖ノ山線1号橋の塗膜のPCB含有量調査を実施。基準値を上回るPCBは検出されなかった。 					

R3年度

評価	A	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由：林業関係者と調整し、新規路線開設を進める必要あり。				

R3年度

Action(改善)	R3実施内容の改善及び見直しの上、R4の方針・計画				
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回のPCB含有量調査の結果を受け、橋梁の補修は実施しない。（PCBの含有量が基準値を下回っていた為） ・ R3年度発生した熱海市盛土流失事故を受け、当町において林道点検を実施した結果、林道宇波竹之下線において、一部盛土の流失が確認された。この結果を受け、盛土の復旧を実施する。（R3.3補正・R4明許繰越事業） 				

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	県営林道事業	所属	地域整備課	SDGs	15
事業（細目）名	県営林道事業	事業番号	1417		
総合計画	基本理念	森林施業の基盤となる林道の整備			
	視点	②仕事	事業番号	4	連番

R3年度

Goal(目標)	基幹林道の整備による林業生産活動の活性化、森林の適正管理の推進に寄与する。
Plan(事業概要・計画)	<ul style="list-style-type: none"> ・森林施業の基盤となる林道の整備（基幹林道因美線、箆山線、中ノ津線）を施行する県営事業に対する負担金及び用地購入

R3年度

Do(実行)		R3実績額			26,132,050円	
活動実績を示す指標		単位	R2	R3(計画)	R3(実績)	対前年比(%)
①	全体事業進捗率	%	48	50	50	104%
②						
③						
実施内容	基幹林道因美線、箆山線、中ノ津線の開設工事の負担金 基幹林道因美線、箆山線、中ノ津線の用地購入					

R3年度

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	因美線の立木補償交渉が難航しており、事業が遅れている。					

R3年度

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由：県主体の事業ではあるが、全体的に遅れを感じる。				

R3年度

Action(改善)	
R3実施内容の改善及び見直しの上、R4の方針・計画	<ul style="list-style-type: none"> ・作業道が接続できるような放線を望む声がある ・既に完了している箇所維持管理。

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	次世代を担う林業後継者の確保・育成、自伐林家の育成	所属	山村再生課	SDG s	15
事業（細目）名	林業事業体等支援事業	事業番号	2053		
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	5	連番

R3年度

Goal(目標)	林業後継者、自伐型林業に取り組む人材の確保・育成を行い、林業就労者の増加を目指す。
Plan(事業概要・計画)	<ul style="list-style-type: none"> ・労働災害防止対策として防護ズボン等の購入を支援することで安全意識の向上を目指す。 ・雇用開始から5年目までの新参入者の社会保険料の事業主負担を支援し、事業体の新規雇用を促進する。

R3年度

Do(実行)		R3実績額	668,915円			
活動実績を示す指標		単位	R2	R3(計画)	R3(実績)	対前年比(%)
①	防護衣服購入支援者数	人	16	3	6	38%
②	社会保険料支援者数	人	4	7	3	75%
③						
実施内容		<ul style="list-style-type: none"> ・防護ズボン等購入支援 ・林業事業体における現場作業員の社会保険料（健康保険、厚生年金）の事業主負担の支援 				

R3年度

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		<ul style="list-style-type: none"> ・防護ズボン等購入支援は、令和3年度は6名を支援。 ・社会保険の支援は、令和3年度は3名支援。年度途中での退職者が2名おり、定着のためどのような形で支援を行うかが課題である。 				

R3年度

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由： 多くの林業従事者に支援ができた。				

R3年度

Action(改善)	
R3実施内容の改善及び見直しの上、R4の方針・計画	
<p>防護ズボン等購入支援において智頭町内の林業労働者の多くに対して支援ができた。1人あたりの補助限度額があることもあり、令和4年度を最終年度とし、新規労働者に対する支援とする方向で検討する。</p>	

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	次世代を担う林業後継者の確保・育成、自伐林家の育成	所属	山村再生課	SDGs	15
事業（細目）名	山と暮らしの人づくり事業	事業番号	2085		
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	5	連番

R3年度

Goal(目標)	林業後継者、自伐型林業に取り組む人材の確保・育成を行い、林業就労者の増加を目指す。
Plan(事業概要・計画)	<ul style="list-style-type: none"> ・自伐型林家等の育成 ・智頭林業を支えてきた架線集材技術を継承する。 ・林業従事者としての定着を促進する。

R3年度

Do(実行)	R3実績額	4,401,011円				
活動実績を示す指標		単位	R2	R3(計画)	R3(実績)	対前年比(%)
①	自伐型林業研修会参加者数	人	6	140	76	1267%
②	架線集材技術継承支援事業申請者	人	3	5	2	67%
③	新規就労支援者数	人	2	2	1	50%
実施内容		<ul style="list-style-type: none"> ・自伐型林業研修会開催支援 ・架線集材技術継承支援 ・新規就労支援 				

R3年度

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度は新規就業者支援として1名を支援（令和3年度が3年目） ・架線集材の支援は令和3年度は2事業体を支援。来年度も引き続き支援を行い技術継承に繋げ、森林整備の手法の一つとして普及させる必要がある。 				

R3年度

評価	B		方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価							
評価	B	評価理由： 架線集材への関心、必要性が認識されている。					

R3年度

Action(改善)	R3実施内容の改善及び見直しの上、R4の方針・計画
<ul style="list-style-type: none"> ・架線集材の必要性を普及し、新たな事業体に取り組んでもらえるよう資格取得等、事業体を支援する。 	

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	地元原木市場への原木安定供給の支援	所属	山村再生課	SDGs	8
事業(細目)名	山と暮らしのつくり事業	事業番号	2085		
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	6	連番

R3年度

Goal(目標)	智頭材(間伐材)の搬出を促進し、地元原木市場への原木の安定供給確保を図る。
Plan(事業概要・計画)	<ul style="list-style-type: none"> ・石谷林業原木市場への出荷材への支援を行う。 ・石谷林業原木市場で材を購入した場合の材に対する支援を行う。

R3年度

Do(実行)		R3実績額	31,378,129円			
活動実績を示す指標		単位	R2	R3(計画)	R3(実績)	対前年比(%)
①	出荷材支援	m ³	27,331	35,200	23,475	86%
②	受渡支援	m ³	4,467	5,000	5,366	120%
③						
実施内容		<ul style="list-style-type: none"> ・石谷林業への出荷支援として、1,200円/m³を補助 ・製材所への受渡支援として、700円/m³を補助 ・建築業者への製品利用支援として10,000円/m³を補助 				

R3年度

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象(者・モノ)、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方(手段、内容、負担)は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		<p>出荷材支援により地元市場への原木供給を継続することが出来た。</p> <p>また、出荷者・製材業者・建築業者にそれぞれ支援を行うことで、智頭材の出荷、利用に繋がった。</p>				

R3年度

評価	A	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	A	評価理由： 木材価格が変動する中、安定した供給、利用に繋がった。				

R3年度

Action(改善)	
R3実施内容の改善及び見直しの上、R4の方針・計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・「智頭の山と暮らしの未来ビジョン」に沿った取組を行う者を補助対象者とし、研修参加を義務づけることで、原木安定供給だけでなく「智頭の山と暮らしの未来ビジョン」の実現を目指す 	

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	木材利用の推進（新需要喚起、バイオマス利用等）	所属	山村再生課	SDG s	7
事業（細目）名	木の宿場プロジェクト推進事業	事業番号	1933		
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	7	連番

R3年度

Goal(目標)	林地残材等、森林由来の木質バイオマス資源を熱利用し、資源の循環利用を推進する。
Plan(事業概要・計画)	<ul style="list-style-type: none"> ・温水プール（薪ボイラー）の運営

R3年度

Do(実行)	R3実績額	1,155,312円				
活動実績を示す指標		単位	R2	R3(計画)	R3(実績)	対前年比(%)
①	出荷材積	t	303.208	300	173	57%
②						
③						
実施内容		<ul style="list-style-type: none"> ・温水プール（薪ボイラー）の運営、木の宿場プロジェクト事業における出荷材支援 				

R3年度

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		<ul style="list-style-type: none"> ・木の宿場プロジェクト事業における出荷材積については、目標に対して約半数の実績となっており、薪のストックが不足。 				

R3年度

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由：木の宿場関係者の固定化				

R3年度

Action(改善)	
R3実施内容の改善及び見直しの上、R4の方針・計画	<ul style="list-style-type: none"> ・木の宿場プロジェクト事業における出荷材積を促進するため、新規出荷者の確保に取り組む。

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	木材利用の推進（新需要喚起、バイオマス利用等）	所属	山村再生課	SDGs	7
事業（細目）名	林業事業体等支援事業	事業番号	2053		
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	7	連番

R3年度

Goal(目標)	林地残材等、森林由来の木質バイオマス資源を熱利用し、資源の循環利用を推進する。
Plan(事業概要・計画)	<ul style="list-style-type: none"> ・薪ストーブ導入支援 ・町内の林業・木材産業の伝統を守り、智頭材の利用促進普及活動を推進するため、智頭町木材協会の活動を支援

R3年度

Do(実行)	R3実績額	1,160,000円				
活動実績を示す指標		単位	R2	R3(計画)	R3(実績)	対前年比(%)
①	薪ストーブ設置台数	台	4	5	2	50%
②						
③						
実施内容		<ul style="list-style-type: none"> ・薪ストーブの設置を支援。 ・智頭町木材協会の活動を支援。 				

R3年度

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		<ul style="list-style-type: none"> ・薪ストーブを設置し、木質バイオマス利用を推進した。 ・智頭町木材協会の活動を支援。 				

R3年度

評価	B		方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価							
評価	B	評価理由： 計画どおりの支援ができた。					

R3年度

Action(改善)	R3実施内容の改善及び見直しの上、R4の方針・計画
<ul style="list-style-type: none"> ・森林資源の循環利用について意識の効用を図り、潜在的に存在している薪ストーブ設置希望者へ向けて補助制度の周知に努める。 ・智頭杉の需要拡大に向け、智頭町木材協会を支援しながら町も関わり事業を進めていく。 	

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	木材利用の推進（新需要喚起、バイオマス利用等）	所属	山村再生課	SDGs	7
事業（細目）名	森林・林業情報発信事業	事業番号	2054		
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	7	連番

R3年度

Goal(目標)	都心での智頭材需要喚起、智頭農林業の振興
Plan(事業概要・計画)	<ul style="list-style-type: none"> ・智頭材を使用した魅力的な商品開発 ・智頭農林高等学校と連携し、智頭農林業の振興を図る ・東京都港区での木材需要喚起を図る

R3年度

Do(実行)	R3実績額	142,751円			
活動実績を示す指標	単位	R2	R3(計画)	R3(実績)	対前年比(%)
① 智頭農林業いきいき交流まつりの開催	回	1	1	1	100%
② 港区での町産木材PR	回	0	2	0	-
③					
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・智頭林業の明日を考える若手の会へ委託、moretreesと連携し商品開発を行った。 ・智頭農林業いきいき交流まつりは新型コロナウイルス対策を徹底して実施した。 ・新型コロナウイルスが東京で蔓延しているため、東京でのPR活動を中止した。 				

R3年度

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・智頭材を使用したまくらを試作し、改良を行っている。 ・コロナウイルス影響下でも事業を実施できるような工夫が必要。 					

R3年度

評価	B		方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価							
評価	B	評価理由： 智頭材を使用した商品開発で一定の成果があった。					

R3年度

Action(改善)	R3実施内容の改善及び見直しの上、R4の方針・計画
<ul style="list-style-type: none"> ・東京都港区での智頭材PRをオンラインも視野に入れながら検討、実施する。 ・まくらの改良、販路確保に向けて引き続き検討する。 	

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	木材利用の推進（新需要喚起、バイオマス利用等）	所属	山村再生課	SDG s	7
事業（細目）名	山と暮らしの人づくり事業	事業番号	2085		
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	7	連番

R3年度

Goal(目標)	木材利用を推進するため智頭杉の新たな需要拡大、販売促進開拓
Plan(事業概要・計画)	・智頭杉の新たな需要拡大、販売促進開拓

R3年度

Do(実行)	R3実績額	1,792,000円			
活動実績を示す指標	単位	R2	R3(計画)	R3(実績)	対前年比(%)
①	研修会等開催	回	6	6	100%
②					
③					
実施内容	・森林組合及び町内製材業者を対象とした、たつの市等等消費地に対する営業戦略会議及び消費地関係者との意見交換会の開催				

R3年度

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象(者・モノ)、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方(手段、内容、負担)は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	・昨年度から智頭町木材協会を研修会の対象に加えたことから、消費地と町内事業者との新たな商談の機会や販売実績が生まれた。 ・コロナ禍により、徳之島の宿泊施設に関する商談は延期となった。					

R3年度

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由： 民間による取引が発生し、商談が進みつつある。				

R3年度

Action(改善)	R3実施内容の改善及び見直しの上、R4の方針・計画
・これまでの取組で民間での取引が進められるなど、一定の成果が見られることから、R4は事業を廃止した。	

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	遊休農地の解消に向けた活動への支援	所属	山村再生課	SDGs	15
事業(細目)名	中山間地域等直接支払交付金事業	事業番号	1859		
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	8	連番

R3年度

Goal(目標)	生産条件の不利性を補正し、農業生産の維持と多面的機能の確保を図る。
Plan(事業概要・計画)	中山間地域のための農業生産条件が不利な地域において、農業生産活動を継続するための支援。

R3年度

Do(実行)	R3実績額	56,035,027円				
活動実績を示す指標		単位	R2	R3(計画)	R3(実績)	対前年比(%)
①	集落協定数(集落・個別)	協定	36	36	36	100%
②	対象面積	㎡	3,087,915	3,087,915	3,083,903	100%
実施内容						
<ul style="list-style-type: none"> ・第5期対策集落協定の認定(34集落協定・2個別協定) ・現地巡回による実施状況(草刈り等の保全活動)の確認(サングリーン智頭へ委託) ・日本型直接支払交付金事業の説明会(全協定を対象に総合センターで実施。6/25) 						

R3年度

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象(者・モノ)、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方(手段、内容、負担)は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題						
<p>昨年度に引き続き農地の保全活動を行っていただいた。</p> <p>担い手や後継者不足により、対象農地が減少傾向にあるため、座談会等を通じて、対象農地面積の維持又は増加の支援を行う必要がある。また、若い世代の活動参加や、新たな担い手の掘り起こし等、他事業との連携も深める。</p>						

R3年度

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由: 広域化や事務局体制の構築が必要				

R3年度

Action(改善)	R3実施内容の改善及び見直しの上、R4の方針・計画
取組が継続できるよう制度の再周知も含め、各協定に助言、指導を行う。	

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	遊休農地の解消に向けた活動への支援	所属	山村再生課	SDGs	15
事業(細目)名	多面的機能支払交付金事業	事業番号	2006		
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	8	連番

R3年度 (4月記入)

Goal(目標)	集落の農地、農業用施設や農村環境を地域ぐるみでの共同活動等により良好な保全と資的向上を図る。
Plan(事業概要・計画)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業計画の再認定 (4組織) ・ 現地巡回による実施状況 (草刈等の保全活動) 確認 (サングリーン智頭へ委託) ・ 対象となる農地・農業用施設を共同作業等により保全管理し、また多面的機能の増進に対する活動組織への支援を行う。

R3年度 (年度末実績を記入)

Do(実行)		R3実績額			13,463,402円	
活動実績を示す指標		単位	R2	R3(計画)	R3(実績)	対前年比(%)
①	活動組織数	組織	26	26	26	100%
②	対象面積	a	24,228	24,228	24,240	100%
実施内容		<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動組織の認定 (26活動組織) ・ 現地巡回による実施状況 (草刈り等の保全活動) の確認 (サングリーン智頭へ委託) ・ 日本型直接支払交付金事業の説明会 (全協定を対象に総合センターで実施。6/25) 				

R3年度 (年度末実績時のチェックを記入)

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象(者・モノ)、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方(手段、内容、負担)は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		<p>昨年度に引き続き農地の保全活動を行っていただいた。</p> <p>担い手や後継者不足により、対象農地が減少傾向にあるため、座談会等を通じて、対象農地面積の維持又は増加の支援を行う必要がある。また、若い世代の活動参加や、新たな担い手の掘り起こし等、他事業との連携も深める。</p>				

R3年度 (年度末評価を記入)

評価	B		方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価							
評価	B	評価理由： 人・農地プランを意識した支援が必要					

R3年度 (年度末改善方針を記入)

Action(改善)	
R3実施内容の改善及び見直しの上、R4の方針・計画	
令和3年度末に活動期間が終了する組織に対し、活動継続できるよう制度の再周知も含め、各協定に助言、指導を行う。	

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	遊休農地の解消に向けた活動への支援	所属	山村再生課	SDGs	15
事業（細目）名	農地中間管理事業	事業番号	2007		
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	8	連番

R3年度（4月記入）

Goal(目標)	担い手等への農地利用集積・集約化を図り、遊休農地の解消を目指す。
Plan(事業概要・計画)	農地の有効利用の継続や農業経営の効率化を進める中心的担い手（認定農業者や集落営農組織）への農地利用の集積・集約化を図る。

R3年度（年度末実績を記入）

Do(実行)	R3実績額	0円
活動実績を示す指標		
①	事業活用件数	-
	単位	R2
	件	R3(計画)
	0	R3(実績)
	1	対前年比(%)
	9	-
実施内容		
令和3年11月末時点において、中間管理機構を通じた利用権設定件数9件、設定面積27,288㎡と集積した。		

R3年度（年度末実績時のチェックを記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題						
令和3年11月末時点において、中間管理機構を通じた利用権設定件数9件、設定面積27,288㎡を集積。 一方で中間管理機構を通じた利用権設定の場合、基盤法の設定では提出を求めない書類が多く、事務処理が煩雑になりがちであるため、今後事務の簡略化を検討する必要がある。						

R3年度（年度末評価を記入）

評価	B		方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価							
評価	B	評価理由： 人・農地プランを意識した支援が必要					

R3年度（年度末改善方針を記入）

Action(改善)	R3実施内容の改善及び見直しの上、R4の方針・計画
相続されていない農地の利用権設定にあたっては、1/2を超える相続関係者（権原者）の同意が必要となり、その取得が困難なために利用権設定を諦める農業者も多かった。 令和4年度は、これまで以上に出来る範囲でサポートし、農地の集積、集約化を促す。	

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	自伐林家の郷	所属	山村再生課	SDGs	15
事業(細目)名	山と暮らしの人づくり事業	事業番号	2085		
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	9	連番

R3年度

Goal(目標)	山林バンクの登録を行い、登録森林の活用により智頭林業を支える担い手の育成・確保を図る。
Plan(事業概要・計画)	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドとなる山林を「山林バンク」として登録 ・登録山林を技術研修や生業の場として活用

R3年度

Do(実行)		R3実績額	39,823円			
活動実績を示す指標		単位	R2	R3(計画)	R3(実績)	対前年比(%)
①	登録森林	ha	35.86	10.00	0.30	1%
②	活用森林	ha	0.00	2.00	1.44	-
③						
実施内容		<ul style="list-style-type: none"> ・3.00haの山林を「山林バンク」として登録 				

R3年度

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象(者・モノ)、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方(手段、内容、負担)は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		<ul style="list-style-type: none"> ・現在、新規参入者であっても施業地を自身で確保しており、登録森林の活用に繋がっていない。 ・山を購入したい、山を売りたいという相談がよせられている状況 				

R3年度

評価	C	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	C	評価理由： 登録森林の活用が課題				

R3年度

Action(改善)	
R3実施内容の改善及び見直しの上、R4の方針・計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・登録森林の活用が課題であるため、その情報を届ける仕組みづくりが必要なため、新規に山林登録があった際には、速やかにその情報を提供するものとする。 	

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	林業の郷	所属	山村再生課	SDGs	15
事業(細目)名	山と暮らしの人づくり事業	事業番号	2085		
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	10	連番

R3年度

Goal(目標)	林家として必要な技術等を幅広く学べる研修会開催を支援し、新たな担い手の確保と育成を図る。
Plan(事業概要・計画)	<ul style="list-style-type: none"> ・自然に満ちた生活実践と林業を生業とすることを志す者に対し、その基礎となる知識・技術等を伝授する教育塾を行う。 ・自伐型林業に取り組む若手に対して、技術研修を実施し、生業として自伐型林業に取り組む担い手を育成する。 ・林業従事者としての定着を促進する。

R3年度

Do(実行)	R3実績額	4,051,011円			
活動実績を示す指標	単位	R2	R3(計画)	R3(実績)	対前年比(%)
① 智頭の山人塾参加者数	人	863	400	710	82%
② 自伐型林業研修会参加者数	人	6	170	76	1267%
③ 新規就労支援者数	人	2	2	1	50%
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・智頭の山人塾開催支援 ・自伐型林業研修会開催支援 ・新規就労支援 				

R3年度

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象(者・モノ)、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方(手段、内容、負担)は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	<p>昨年度は、新型コロナウイルス感染症対策により、研修会をZoomにより開催することが多く手探りの状況であった。本年度はオンラインと現地開催の両方の利点を活かして事業を実施している。参加者も全国に広がったこともあり、森林・林業教育への取組を広くPRすることができ、町外受講生に智頭林業への興味関心を高めた。</p>					

R3年度

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由： コロナ禍で制約を受けたが、オンラインによる講義開催により対応した。				

R3年度

Action(改善)	R3実施内容の改善及び見直しの上、R4の方針・計画
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染状況にもよるが、研修会は現地、対面開催が望ましく、研修会の規模等を検討し開催する。 	

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	多様な消費者ニーズに応える農産物づくりの推進（自然栽培）	所属	山村再生課	SDGs	15
事業（細目）名	ホンモノの農産物づくり推進事業	事業番号	1953		
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	11	連番

R3年度

Goal(目標)	自然栽培への理解を深め、実践及び普及するための研修会等の開催、並びに新たな自然栽培の担い手の確保、耕作放棄地の解消を図り、農業の振興と地域の活性化を図る。
Plan(事業概要・計画)	①自然栽培の担い手育成事業（新規2名） ②特定非営利活動法人自然栽培そらみずちの支援

R3年度

Do(実行)		R3実績額	1,450,000円			
活動実績を示す指標		単位	R2	R3(計画)	R3(実績)	対前年比(%)
①	自然栽培新規就農者支援	人	1	2	2	200%
②	自然栽培普及促進支援	団体	1	1	1	100%
実施内容		自然栽培新規就農者の支援を新たに2名行った。 特定非営利活動法人自然栽培そらみずちを支援し、自然栽培の普及・実践を行った。				

R3年度

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		本町の特色ある取り組みであり、多様なニーズに応じていくための体制づくりが必要。 担い手の育成等、実施方法や成果をよく検証しながら進めていく必要がある。				

R3年度

評価	B		方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価							
評価	B	評価理由： 自然栽培による遊休農地解消につなげていくべき					

R3年度

Action(改善)	
	R3実施内容の改善及び見直しの上、R4の方針・計画
そらみずちを中心に自然栽培を広めていき、自然栽培野菜の付加価値を高めていくことが必要。	

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	智頭宿特産村の活性化	所属	企画課	SDG s	17
事業（細目）名	観光事業	事業番号	1167		
総合計画	基本理念	I 森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	15	連番

R3年度

Goal(目標)	智頭宿の駐車場内にある特産村に賑わいを創出し、智頭町の魅力向上に努める。
Plan(事業概要・計画)	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客への案内、おもてなし。 ・集客をはかるための魅力発信。 ・各種特産品の販売。

R3年度

Do(実行)		R3実績	467,700円			
活動実績を示す指標		単位	R2	R3(計画)	R3(実績)	対前年比(%)
①	特産村貸出店舗数	件	5	5	5	100%
②	特産村出店者との集客作戦協議	回	2	3	0	0%
③	石谷家入館者数	人	9,831	10,000	10,135	103%
実施内容		<ul style="list-style-type: none"> ・智頭町観光協会HPのリニューアルや魅力発信事業での効果的な情報発信により、アフターコロナに向けた宣伝を実施。 ・コロナ禍において、近隣県へ智頭宿及び石谷家住宅等のPR。(スタンプラリーへの掲載やツアー造成など) 				

R3年度

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		<ul style="list-style-type: none"> ・特産村に空き店舗を生じさせないことにより、施設の活性化及び観光客へのおもてなしを行った。 ・アフターコロナに向けて、観光協会と連携し智頭宿一体への集客手法を考える必要がある。 				

R3年度

評価	B
----	---

方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
----	----	------	----	----

担当課長評価

評価	B
----	---

評価理由：	観光客が減少していく中で、それぞれの店舗が継続して出店して頂いた。今後は特産村として、一体感を示しながら進めていく必要がある。
-------	---

R3年度

Action(改善)	R3実施内容の改善及び見直しの上、R4の方針・計画
<ul style="list-style-type: none"> ・魅力発信事業やちづみちエリア事業者と連携をし、特産村内のみならずエリア一体の連携強化を図る必要がある。 	

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	地産地消の推進	所属	山村再生課	SDGs	8
事業（細目）名	ホンモノの農産物づくり推進事業		事業番号	1953	
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	16	連番

R3年度

Goal(目標)	町内で生産される農産物の魅力を町内外に情報発信し、消費拡大の仕組みづくりと生産者の営農意欲の増進を図る。
Plan(事業概要・計画)	<ul style="list-style-type: none"> ・ルバーブ等地域で生産振興に取り組む農産物を学校給食で活用するよう働きかける ・物産会等を通して町内で生産される農産物の魅力を町内外に発信する

R3年度

Do(実行)		R3実績額	79,000円			
活動実績を示す指標		単位	R2	R3(計画)	R3(実績)	対前年比(%)
①	ルバーブジャムを町内外の学校給食で提供する	回	2	2	2	100%
②	農産物物産会の実施	回	0	1	1	-
実施内容						
<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食でのルバーブジャムの提供 ・農産物物産会（智頭の農市）の開催 						

R3年度

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題						
<ul style="list-style-type: none"> ・農林産物の魅力PRに関する活動として、「智頭の農市」を開催した。 ・引き続き販路拡大に有効な事業実施方法の検討を行う。 						

R3年度

評価	B		方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価							
評価	B	評価理由： コロナ禍で停滞していたPRに注力する必要がある					

R3年度

Action(改善)	
R3実施内容の改善及び見直しの上、R4の方針・計画	
<p>今後も、智頭の農産物の魅力PR・情報発信のための方法及び販路拡大のための有効な方法を協議していく。</p>	

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	本物の農産物供給体制	所属	山村再生課	SDG s	2
事業（細目）名	ホンモノの農産物づくり推進事業	事業番号	1953		
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	17	連番

R3年度

Goal(目標)	家庭菜園野菜の集出荷体制を整え販路の拡大を図る。
Plan(事業概要・計画)	家庭菜園野菜の特産品化に向けた集出荷支援と付加価値販売（智頭野菜新鮮組）に係る活動を支援する。

R3年度

Do(実行)		R4実績額	2,050,000円			
活動実績を示す指標		単位	R2	R3(計画)	R3(実績)	対前年比(%)
①	出荷売上	円	662,936	500,000	604,558	91%
②	自然栽培新規就農者育成支援事業補助金	名	2	2	2	100%
③	自然栽培普及促進事業補助金	名	1	1	1	100%
実施内容		野菜の集荷、梱包、発送作業、各種取引先、ふるさと納税等へ野菜を発送する活動を支援する。 野菜づくり講習会を開催し、品質のよい野菜の生産を行う。 本町が促進する自然栽培への新規就農及び町内に活動拠点がある自然栽培を実践・普及する団体へ支援する。				

R3年度

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		新型コロナウイルスの影響で野菜発送の注文が多くなっており、出荷売上に増加が見込める。 野菜づくり講習会を行い、品質の向上した野をPRするよい機会となった。				

R3年度

評価	B		方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価							
評価	B	評価理由： 高齢者福祉が手段としても有効					

R3年度

Action(改善)	
	R3実施内容の改善及び見直しの上、R4の方針・計画
引き続き、野菜の品質向上とPRを行い、出荷売上の増加を目指す。	

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	低コスト林業の推進	所属	山村再生課	SDGs	15
事業(細目)名	森づくり作業道整備事業	事業番号	1654		
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	18	連番

R3年度

Goal(目標)	健全な森づくりへの積極的な取組を促進し、労働負荷や素材の搬出コスト低減を図る
Plan(事業概要・計画)	作業道の開設を支援

R3年度

Do(実行)	R3実績額	19,520,919円				
活動実績を示す指標		単位	R2	R3(計画)	R3(実績)	対前年比(%)
①	作業道開設延長	m	11,015	9,600	9,744	88%
②						
③						
実施内容	作業道の開設を支援					

R3年度

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象(者・モノ)、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方(手段、内容、負担)は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	例年、計画どおりの実績をあげている。 今後の課題として、より壊れにくい作業道の作設を推進する必要があり、路網線形の指導等不可欠。					

R3年度

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由： 計画どおりの執行ができています。				

R3年度

Action(改善)	R3実施内容の改善及び見直しの上、R4の方針・計画
間伐箇所遠隔化が進み、木材搬出に必要な作業道の開設が不可欠となっている。 また、単年度の作業道利用ではなく、複数年利用可能な作業道の作設推進が必要。	

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	低コスト林業の推進	所属	山村再生課	SDGs	15
事業(細目)名	美しい森林づくり基盤整備事業	事業番号	1906		
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	18	連番

R3年度

Goal(目標)	森林の持つ公益的機能の高度発揮及び、維持増進を目的とした森林整備を推進
Plan(事業概要・計画)	森林の持つ公益的機能の高度発揮及び、維持増進を目的とした森林整備(間伐・森林作業道開設)に必要な経費の支援を行う。

R3年度

Do(実行)	R3実績額	5,016,141円			
活動実績を示す指標	単位	R2	R3(計画)	R3(実績)	対前年比(%)
① 間伐面積	ha	107.55	70	12	11%
② 作業道延長	m	6,080	2,800	513	8%
③					
実施内容	森林の持つ公益的機能の高度発揮及び、維持増進を目的とした森林整備(間伐・森林作業道開設)に必要な経費の支援を行う。				

R3年度

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象(者・モノ)、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方(手段、内容、負担)は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	本事業は、類似事業である造林事業では対象とならない、高齢級森林の間伐を対象に支援が可能。 また団地化(集約化)が困難な森林においても、森林整備の実施ができた。 ※造林事業は、1施行地5ha以上の施策が採択要件(令和3年度迄)					

R3年度

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由：高齢級森林の整備に対応ができる有効な事業				

R3年度

Action(改善)	R3実施内容の改善及び見直しの上、R4の方針・計画
令和3年度が初年度ということで、現地着手が可能となったのは、令和3年9月1日以降となった。 令和4年度以降は、前年度よりもはや現地着手が可能となるため、森林整備の実績は向上すると予想される。 国交付金事業であるため、なるべく多くの林業事業者をこちらの事業に誘導する必要がある。	

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	低コスト林業の推進	所属	山村再生課	SDGs	15
事業（細目）名	林業事業者等支援事業	事業番号	2053		
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	18	連番

R3年度

Goal(目標)	健全な森づくりへの積極的な取組を促進し、労働負荷や素材の搬出コスト低減を図る。
Plan(事業概要・計画)	林業機械の整備、リースを支援 (「智頭林業」機械化促進事業)

R3年度

Do(実行)	R3実績額	815,152円			
活動実績を示す指標	単位	R2	R3(計画)	R3(実績)	対前年比(%)
① 林業機械整備支援	台	2	1	1	50%
② 林業機械リース支援	台	3	2	2	67%
③					
実施内容	鳥取県林業再生事業における県単機械整備、以外支援を受けている事業者に対してその経費を支援。				

R3年度

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	例年、計画どおりの実績をあげているが、鳥取県林業再生事業における機械補助金については、予算が足りない状況が続いており今後町で機械支援についてどうしていくか検討が必要。					

R3年度

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由： 計画どおりの執行ができています。				

R3年度

Action(改善)	R3実施内容の改善及び見直しの上、R4の方針・計画
低コスト林業の推進には機械化が不可欠。 また機械を導入することにより、現場作業の軽減化、安全化を図り労働環境を改善し担い手の確保に繋げる。	

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	低コスト林業の推進	所属	山村再生課	SDGs	15
事業(細目)名	山と暮らしの入づくり事業	事業番号	2085		
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	18	連番

R3年度

Goal(目標)	健全な森づくりへの積極的な取組を促進し、労働負荷や素材の搬出コスト低減を図る
Plan(事業概要・計画)	作業道の開設を支援(持続可能な山づくり支援事業)

R3年度

Do(実行)	R3実績額				0円
活動実績を示す指標	単位	R2	R3(計画)	R3(実績)	対前年比(%)
① 作業道開設延長	m	790	500	0	0%
②					
③					
実施内容	作業道開設を支援する事業で、事業実施予定者は冬季の積雪の融雪後に着手する予定としていたが想定以上の積雪が続いたことで現場着手に至らなかった。				

R3年度

Check(確認)		100%	75%	50%	25%	0%
評価項目	評価内容					
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象(者・モノ)、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方(手段、内容、負担)は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	令和2年度からの新規事業。新規参加者が本事業を活用し、技術向上に併せて、国・県事業を実施できることが望ましい。国・県事業を実施するには、測量や一定以上の間伐が求められる。					

R3年度

評価	C		方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価							
評価	C	評価理由: ビギナー向けの事業として必要性があるが、本年度は実績なしとなった。					

R3年度

Action(改善)	R3実施内容の改善及び見直しの上、R4の方針・計画
間伐箇所遠隔化が進み、木材搬出に必要な作業道の開設が不可欠となっている。環境に配慮するとともに間伐後の山の価値を高めるため、現場、搬出システムに応じた規格の作業道の作設推進が必要。	

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	木の宿場プロジェクトの運営支援	所属	山村再生課	SDG s	15
事業(細目)名	木の宿場プロジェクト推進事業	事業番号	1933		
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	19	連番

R3年度

Goal(目標)	林地残材等、森林由来の木質バイオマス資源を熱利用し、資源の循環利用を推進する。
Plan(事業概要・計画)	<ul style="list-style-type: none"> ・木の宿場への出荷支援 ・間伐支援 ・木の宿場林業塾開催支援

R3年度

Do(実行)		R3実績額	3,416,755円			
活動実績を示す指標		単位	R2	R3(計画)	R3(実績)	対前年比(%)
①	出荷材積	t	303.208	300	173	57%
②	間伐面積	a	96	500	56	58%
③						
実施内容		<ul style="list-style-type: none"> ・木の宿場への出荷支援 ・間伐支援 ・木の宿場林業塾開催支援 				

R3年度

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象(者・モノ)、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方(手段、内容、負担)は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		<p>木の宿場プロジェクト事業における出荷材積については、目標に対して約半数の実績となっており、薪のストックが不足。 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、新規出荷者の拡充を目的とする林業塾の開催が計画どおり開催できていない。</p>				

R3年度

評価	C		方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価							
評価	C	評価理由：木の宿場関係者の固定化					

R3年度

Action(改善)	
R3実施内容の改善及び見直しの上、R4の方針・計画	
<p>出荷者の固定化が一番の課題であることから、令和4年度は新型コロナウイルス感染症対策を徹底して木の宿場林業塾を開催する等の事業を進める。</p> <p>町民の「杉小判」認知度が向上したことを活かし、今後の出荷に繋がるよう取り組みを進める。</p>	

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	地域の特性を活かした農業生産（農産物加工）の支援	所属	山村再生課	SDGs	8
事業（細目）名	地域農業振興プラン支援事業	事業番号	1800		
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	20	連番

R3年度

Goal(目標)	町内での農業担い手の確保、新規就農者の育成、農地の適正利用
Plan(事業概要・計画)	<p>青年の就農意欲の喚起、定着を図る。</p> <p>本町の農業を下支えしている小規模農家の営農継続を支援することにより、地域農業の維持及び発展を図る。</p>

R3年度

Do(実行)		R3実績額	8,048,086円			
活動実績を示す指標		単位	R2	R3(計画)	R3(実績)	対前年比(%)
①	担い手の確保	人	1	1	1	100%
②	営農継続支援農家数	件	9	7	7	78%
実施内容		<p>新規就農者への支援</p> <p>機械、施設導入の支援</p> <p>遊休農地の再生利用支援</p>				

R3年度

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		<p>本町において、農業の担い手確保が重要な課題となっており、就農環境の整備を継続して進めていく。</p>				

R3年度

評価	A		方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価							
評価	B	評価理由： 小規模農家を含めた多様な担い手の確保が課題。					

R3年度

Action(改善)	
R3実施内容の改善及び見直しの上、R4の方針・計画	
<p>担い手の確保に苦慮している実情を踏まえ、今後は集落や地域の枠を超えた農地の集積化、集約化を目指し、農地の適正管理を推進する。</p>	

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	地域の特性を活かした農業生産（農産物加工）の支援	所属	山村再生課	SDGs	8
事業（細目）名	ホンモノの農産物づくり推進事業	事業番号	1953		
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	20	連番

R3年度

Goal(目標)	農業への関わり方や理念、規模に則した支援を行い、地域農業の魅力を高め、付加価値の高い農産物づくりを進める
Plan(事業概要・計画)	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭菜園野菜の特産品化に向けた集出荷支援と付加価値販売（智頭野菜新鮮組）に係る活動を支援する

R3年度

Do(実行)	R3実績額	600,000円				
活動実績を示す指標		単位	R2	R3(計画)	R3(実績)	対前年比(%)
①	智頭野菜新鮮組出荷売上	円	662,936	500,000	604,558	91%
実施内容		<ul style="list-style-type: none"> ・野菜の集荷、梱包、発送作業、各種取引先、ふるさと納税等へ野菜を発送する活動を支援する。 ・野菜づくり講習会を開催し、品質のよい野菜の生産を行う。 				

R3年度

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響で野菜発送の注文が多くなっており、出荷売上に増加が見込める。 ・野菜づくり講習会を行い、品質の向上した野菜をPRするよい機会となった。 				

R3年度

評価	B		方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価							
評価	B	評価理由： 若い世代の担い手確保は重要課題					

R3年度

Action(改善)	R3実施内容の改善及び見直しの上、R4の方針・計画
<p>新型コロナウイルスの影響で野菜発送の注文が多くなっており、出荷売上に増加が見込める。 野菜づくり講習会を行い、品質の向上した野菜をPRするよい機会となった。</p>	

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	有害鳥獣対策(侵入を防ぐ対策、個体数を減らす対策)への支援	所属	山村再生課	SDGs		
事業(細目)名	鳥獣等被害防止事業	事業番号	1776			
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり				
	視点	仕事	事業番号	21	連番	20

R3年度(4月記入)

Goal(目標)	町産ジビエ等の本町ならではの資源を有効活用し、これらを地域内で循環利用する社会を構築する。
Plan(事業概要・計画)	
① 侵入を防ぐ対策	・ニホンジカ、イノシシの侵入防止柵の導入支援、鳥獣に強い集落作りの支援(捕獲講習会の開催、買購入支援等)
② 個体数を減らす対策	・ニホンジカ、イノシシ、カラス、カワウ等の有害鳥獣捕獲、銃所持者の射撃技術向上、アナグマ、タヌキ、ハクビシン等の中型獣による農業被害の防止
③ 町産ジビエの振興	

R3年度(年度末実績を記入)

Do(実行)	R3実績額				10,380,576円	
活動実績を示す指標		単位	R2	R3(計画)	R3(実績)	対前年比(%)
①	侵入防止柵 整備延長	m	1,877	1,410	2,672	142%
②	ニホンジカ・イノシシ捕獲頭数	頭	608	690	555	91%
実施内容						
・侵入を防ぐ対策 侵入防止柵の整備支援 ・個体数を減らす対策 ・イノシシ、ニホンジカ、カラス捕獲の委託 猟友会射撃練習の開催 ・町産ジビエの振興 ・ちづDeer'sを会場にして、狩猟・食肉解体研修を行った。						

R3年度(年度末実績時のチェックを記入)

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象(者・モノ)、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方(手段、内容、負担)は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題						
近年有害鳥獣の生息数は減少または横ばい傾向にあり、侵入を防ぐ対策と個体数を減らす対策の効果が出ている。引き続き、有害鳥獣対策を推進していくには、智頭町猟友会の協力が必要不可欠であり会員数を増やす取組に力を入れていく必要がある。						

R3年度(年度末評価を記入)

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由: 引き続き、鳥獣被害防止への注力が必要。				

R3年度(年度末改善方針を記入)

Action(改善)	R3実施内容の改善及び見直しの上、R4の方針・計画
智頭町猟友会の強化と町産ジビエPRに力を入れ、狩猟、解体講習会等の取組が必要。ジビエ肉と狩猟に興味を持ってもらう人を増やしていく。	

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	地域資源を循環、有効活用する	所属	山村再生課	SDGs	9
事業（細目）名	林業事業体等支援事業	事業番号	2053		
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	24	連番

R3年度

Goal(目標)	木材など、本町ならではの資源を有効活用し、これらを地域内で循環利用する社会を構築する。
Plan(事業概要・計画)	・薪ストーブ導入支援

R3年度

Do(実行)	R3実績額	360,000円				
活動実績を示す指標		単位	R2	R3(計画)	R3(実績)	対前年比(%)
①	薪ストーブ設置台数	台	4	5	2	50%
②						
③						
実施内容		薪ストーブ導入支援				

R3年度

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		・薪ストーブ2台の設置、1件の相談があり、木質バイオマス利用を推進に繋がっている。				

R3年度

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由： 計画どおり実施できた。				

R3年度

Action(改善)	R3実施内容の改善及び見直しの上、R4の方針・計画
・森林資源の循環利用について意識の効用を図り、潜在的に存在している薪ストーブ設置希望者へ向けて補助制度の周知に務める。	

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	智頭町まるごと民泊の積極的推進	所属	山村再生課	SDGs	8
事業(細目)名	智頭町まるごと民泊事業	事業番号	1972		
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	25	連番

R3年度

Goal(目標)	民泊を通じ多くの方に本町を訪れてもらい、地域の活性化につなげ第2のふるさととなるよう推進する。
Plan(事業概要・計画)	<p>・民泊を通じ多くの方に本町を訪れてもらい、地域の活性化に繋げるとともに、都市住民の第2のふるさととなるよう事業を推進。</p> <p>・ワンランク上のおもてなし提供、各家庭のおもてなし力を智頭町のおもてなしレベルに引き上げる。</p>

R3年度

Do(実行)		R3実績額			1,809,900円	
活動実績を示す指標		単位	R2	R5(計画)	R3(実績)	対前年比(%)
①	新規民泊受入家庭の増	軒	1	5	4	400%
②	民泊レベルアップのための研修会	回	4	5	3	75%
③						
実施内容		<p>・智頭町民泊のPRとイベント運営による協議会活動活性化のため、「智頭町民泊フォトロゲイニング」を実施した。</p> <p>・民泊レベルアップ研修として、新型コロナウイルス対策認証店取得研修・コミュニティ通貨まちのコイン体験作成プレストワークショップ・家庭交流会を行った。</p>				

R3年度

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象(者・モノ)、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方(手段、内容、負担)は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		<p>・新規協議会加入4軒、退会3軒、簡易宿所営業登録7軒。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大のため、個室のホテルや古民家1棟貸しに比べ、交流が目的の民泊需要は落ち込んでいる。</p> <p>新しい生活様式に合わせたおもてなしの検討が必要。</p>				

R3年度

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由：新しい生活様式に合わせたおもてなしの検討が必要。				

R3年度

Action(改善)	
R3実施内容の改善及び見直しの上、R4の方針・計画	
<p>新型コロナウイルス感染拡大による受入数減少のため、新しい生活様式に合わせたおもてなし(日帰りプラン・各種体験メニュー・オンライン民泊等)の充実が必要。</p> <p>智頭町の町並みや原風景をはじめ、智頭町民泊をより多くの方にPRし、イベント運営を通して協議会の活性化を図るため、「智頭町民泊フォトロゲイニング」を開催する。</p>	

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	森林セラピー商品の開発	所属	山村再生課	SDGs	8,12
事業(細目)名	森林セラピー事業	事業番号	1896		
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	26	連番

R3年度

Goal(目標)	地域の活力創造と疎開の町として癒しの里づくりを進めるため、新たな商品・プログラムの構築を推進。
Plan(事業概要・計画)	<ul style="list-style-type: none"> ・企業研修プログラムの販売及び企業のニーズに合わせたプログラムの販売。 ・他の癒し産業とのコラボレーションプログラムの販売。 ・田舎暮らし体験の活用。 ・智頭町森林セラピーアプリの活用。

R3年度

Do(実行)		R3実績額	1,166,210円			
活動実績を示す指標		単位	R2	R3(計画)	R3(実績)	対前年比(%)
①	森林セラピーセミナーの開催	回	2	1	1	50%
②	うつ病患者を対象としたデータ収集	回	0	0	0	-
③	企業研修の実施	回	4	1	0	0%
実施内容		<ul style="list-style-type: none"> ・ライフシフト65連携事業で「森林セラピー×ワーケーションツアー」を企画し、PRのためのオンラインセミナーを開催した。 ・智頭町森林セラピーアプリ、SNS等を活用して情報発信を行った。 				

R3年度

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象(者・モノ)、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方(手段、内容、負担)は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		<p>新型コロナウイルス感染拡大により、屋外アクティビティや癒し産業、ワーケーション等の関心は高まっている。企画したツアーをPRするオンラインセミナーを開催したが、直接現地に赴いてのPRや営業活動は自粛した。</p> <p>事業自体を止めるのではなく、感染症対策を徹底したうえで実施を図らなければ、協力団体のモチベーションの維持が難しい。</p>				

R3年度

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由： 感染症対策を徹底したうえで事業を止めないことが必要。				

R3年度

Action(改善)	
R3実施内容の改善及び見直しの上、R4の方針・計画	<p>新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、県外観光客の受入を再開する。県外者への営業活動等も再開し、アフターコロナに向けて新しい生活様式に合わせた旅行プラン(ワーケーション・オンライン等)のアプローチを開始する。</p> <p>森林セラピーイメージキャラクター「もりりん」を活用し、観光資源化(商用利用)に向けた取り組みを行う。</p>

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	地域経済循環創造事業	所属	企画課	SDG s	8
事業（細目）名	まちづくり支援事業	事業番号	2030		
総合計画	基本理念	I 森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	30	連番

R3年度

Goal(目標)	地域資源を生かし、持続可能な事業の立ち上げや地域課題の解決を図るため、民間事業者等の初期投資費用を地域金融機関と町が支援することにより、地域の活性化が図られる。
Plan(事業概要・計画)	・地域経済循環創造事業補助金の募集

R3年度

Do(実行)	R3実績額					0千円
活動実績を示す指標	単位	R2	R3(計画)	R3(実績)	対前年比(%)	
①	地域経済循環創造事業補助金の募集広報	回	1	1	1	100%
②	随時紹介と相談を受ける	回	2	1	1	50%
③						
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・6月広報折り込みのチラシに補助金の内容を載せ、広報。 ・随時、新規取り組みたい事業がある場合の相談時に紹介。 ・1件の相談を受けたが、年度末であり、金融機関との調整不足から申請に至らなかった。 					

R3年度

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・新規事業に取り組みたい場合、相談時にこの事業を紹介している。 ・地域金融機関の融資がなければ進まない事業であるが、町と金融機関がフォローできるので、起業をしたい場合に挑戦できる環境を作っていきたい。 					

R3年度

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	A	評価理由： 公民連携事業であり、周知を図り活用を促す必要がある				

R3年度

Action(改善)	R3実施内容の改善及び見直しの上、R4の方針・計画
	<ul style="list-style-type: none"> ・新規創業や開業時の初期投資に使っていただけるよう、相談体制を維持する。 ・地域金融機関との連携を図る。

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	地籍調査事業	所属	地籍調査課	SDG s	15
事業(細目)名	地籍調査事業	事業番号	1392		
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	8	連番

R3年度

Goal(目標)	計画どおり事業実施すること。
Plan(事業概要・計画)	<p>法務局にある土地登記簿、公図に基づき智頭町内の土地の形状、境界、所有者の土地の関係を一筆毎に調査し地籍簿、地籍図を作成する事業である。</p> <p>智頭町の総面積224.70km²のうち地籍調査を実施する面積は、国有林、ほ場整備区域を除外した191.53km²であり、平成5年度に富沢地区から着手し、現在那岐地区・山形地区・山郷地区を調査している。</p> <p>本年度実施地区は、継続地区(14計画区)、新規地区(3計画区)の17計画区(当該年度数値情報化6計画区を含む)22.62km²であり、うち大字大屋の一部(山)1実施区面積1.79km²、大字八河谷の一部(平・山)2実施区面積0.87km²、大字中原の一部(山)1実施区面積2.85 km²を一筆調査する。</p> <p>新たに調査地区としては、大字大屋の一部(山)1調査区面積1.56km²、大呂の一部(山)1調査区面積1.07km²、中原の一部(山)1調査区面積1.32km²を着手する。</p>

R3年度

Do(実行)		R3実績額		97,468,000円		
	活動実績を示す指標	単位	R2	R3(計画)	R3(実績)	対前年比(%)
①	地籍調査事業費	千円	111,556	115,012	97,468	87%
②						
③						
実施内容	事業計画により実施をすることが必要であり、また、土地所有者も高齢化進んでおり早期に事業を完了できるように、作業効率向上を図るため平成29年度から調査の一部を直営で実施している。					

R3年度

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適應しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象(者・モノ)、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方(手段、内容、負担)は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	令和3年度事業は、遅延等がなく計画のどおり実施している。					

R3年度

評価	A		方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価							
評価	A	評価理由：計画どおり事業実施しているため					

R3年度

Action(改善)	
R3実施内容の改善及び見直しの上、R4の方針・計画	
<p>早期に事業完了できるように、地域の土地の形状等考慮しながら調査区を決める必要があるため、事業計画作成するにあたり十分な検討を行うことが重要である。</p>	

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	町内各地へのセラピーロードの整備	所属	山村再生課	SDG s	15
事業（細目）名	森林セラピー事業	事業番号	1896		
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	環境整備	事業番号	9	連番

R3年度

Goal(目標)	町内各地のセラピーロードの点検及び維持管理。
Plan(事業概要・計画)	<ul style="list-style-type: none"> ・各セラピーロード内の倒木撤去等 ・各セラピーロード関連施設修繕

R3年度

Do(実行)		R3実績額	880,556円			
活動実績を示す指標		単位	R2	R3(計画)	R3(実績)	対前年比(%)
①	各セラピーロード内の倒木撤去等	回	4	4	2	50%
②	各セラピーロード関連施設修繕	回	11	11	6	55%
③						
実施内容		<ul style="list-style-type: none"> ・芦津セラピーロードの倒木撤去、天木森林公園コースの枯松伐採を行った。 ・横瀬渓谷コース紅葉の道路面修繕、中国自然歩道コースピクトグラムカバー修繕等を行った。 				

R3年度

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		<ul style="list-style-type: none"> ・多くの方に安全に利用してもらうためのセラピーロード維持管理を行った。 ・芦津渓谷駐車場トイレについて、平成30年豪雨以降に漏水対策工事を行ったが、本流の水量も安定せず職員による汲み上げ作業が数回あった。 				

R3年度

評価	A	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	A	評価理由： 多くの方に安全に利用してもらえるよう継続的な維持管理が必要。				

R3年度

Action(改善)	
R3実施内容の改善及び見直しの上、R4の方針・計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて引き続きロード内の倒木撤去と関連施設の修繕を行う。 	

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	良好な景観形成に向けた周知	所属	企画課	SDG s	11
事業（細目）名	まちづくり事務費	事業番号	1011		
総合計画	基本理念	I 森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	③ 環境整備	事業番号	18	連番

R3年度

Goal(目標)	良好な景観を守るために景観計画を周知し、行動する時には景観に配慮する意識を醸成する
Plan(事業概要・計画)	・智頭町景観計画の周知

R3年度

Do(実行)		R3実績額			54,264円	
活動実績を示す指標		単位	R2	R3(計画)	R3(実績)	対前年比(%)
①	庁舎内景観計画勉強会	回	1	1	0	0%
②	景観計画策定審議会	回	0	1	1	-
③						
実施内容	・庁舎内景観計画勉強会は開催できていない ・県起業砂防堰堤工事に関する審議会を開催（12/24）					

R3年度

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	・教育課と連携して、文化的景観をふまえた景観計画のローリングが必要 ・庁舎内勉強会を開催し、各部局横断的な取り組みを行いたい ・対町民向けのアクションが必要					

R3年度

評価	C	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	C	評価理由： 文化的意識や景観意識の醸成を関係課と連携して実施する必要がある。				

R3年度

Action(改善)	
R3実施内容の改善及び見直しの上、R4の方針・計画	・教育課と連携した庁舎内勉強会の開催 ・景観計画の見直し ・対町民向けのアクション

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	じん芥処理事業	所属	税務住民課	SDG s	11
事業（細目）名	じん芥処理事業	事業番号	1120		
総合計画	基本理念	ごみの削減に対する意識づくり			
	視点	環境整備	事業番号	20	連番

R3年度

Goal(目標)	不法投棄の解消
Plan(事業概要・計画)	・不法投棄パトロールの実施

R3年度

Do(実行)	R3実績額					0円
活動実績を示す指標		単位	R2	R3(計画)	R3(実績)	対前年比(%)
①	不法投棄パトロール	回	随時	随時	2	-
②						
③						
実施内容	・不法投棄パトロールの実施					

R3年度

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	不法投棄が散見されている。さらなる啓発が必要。					

R3年度

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由：				

R3年度

Action(改善)	R3実施内容の改善及び見直しの上、R4の方針・計画 不法投棄のさらなる啓発とパトロールの強化が必要と考える。
------------	---

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	町内畜産業者の支援	所属	山村再生課	SDGs	8
事業(細目)名	畜産業費	事業番号	1145		
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	連番	I-1

R3年度

Goal(目標)	畜産農家の経営安定を図り、畜産事業の進行を図る。
Plan(事業概要・計画)	<ul style="list-style-type: none"> ・第177回智頭町畜産共進会の開催 ・雌牛の導入支援 ・東部地区畜産共進会の出品支援(輸送費の助成)

R3年度

Do(実行)		R3実績額	57,000円			
活動実績を示す指標		単位	R2	R3(計画)	R3(実績)	対前年比(%)
①	畜産共進会の開催	回	1	1	0	0%
②	雌牛の増頭	頭	11	1	1	9%
③	畜産共進会出品支援	頭	5	5	3	60%
実施内容		鳥取県畜産共進会への出品支援を5頭行った。 智頭町鳥取和牛振興総合対策事業費補助金で、町内畜産農家の和牛導入1頭に対して支援を行った。				

R3年度

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象(者・モノ)、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方(手段、内容、負担)は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		新型コロナウイルスの影響で、智頭町畜産共進会が実施できなかった。実施方法に工夫が必要。 鳥取県畜産共進会への出品支援を5頭行った。 智頭町鳥取和牛振興総合対策事業費補助金で、町内畜産農家の和牛導入1頭に対して支援を行った。				

R3年度

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由: 若手の参入が課題				

R3年度

Action(改善)	
R3実施内容の改善及び見直しの上、R4の方針・計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・智頭町和牛改良部会の高齢化のため、事業拡大が難しく、飼養頭数の減少が見られる。後継者や作業効率化等、改善の必要がある。 ・R3年度は智頭町畜産共進会が実施できなかったが、感染防止対策を講じながら実施し、全国和牛能力共進会に向けた機運を高めていく。 	

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	森林経営管理制度の推進	所属	山村再生課	SDGs	9
事業(細目)名	森林経営管理推進事業	事業番号	2082		
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	環境整備	事業番号	連番	1-2

R3年度

Goal(目標)	森林経営管理法に基づく、新たな森林管理システムの実施
Plan(事業概要・計画)	森林経営管理法に基づく、新たな森林管理システムの実施

R3年度

Do(実行)		R3実績額			1,003,200円	
	活動実績を示す指標	単位	R2	R3(計画)	R3(実績)	対前年比(%)
①	意向調査対象森林面積	ha	38.2	52.83	30.64	80%
②						
③						
	実施内容	森林経営管理法に基づく、新たな森林管理システムの実施				

R3年度

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象(者・モノ)、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方(手段、内容、負担)は適正か	A	B	C	D	E
	成果・課題	計画どおり新たな森林管理システムを実施できている。 意向調査後の森林整備の実施が課題。				

R3年度

評価	A		方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価							
評価	A	評価理由：新たな森林管理システムを効率的に実施できている。					

R3年度

Action(改善)	R3実施内容の改善及び見直しの上、R4の方針・計画
	森林整備をより効率的、速やかに実施するには、早急な公募業務にとりかかる必要がある。 市町村森林経営管理事業にて事業実施する上でも、冬季の降雪を避けるような発注が必要である。

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	町有林管理	所属	山村再生課	SDGs	15
事業（細目）名	町有林造林事業	事業番号	1156		
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	環境整備	事業番号	連番	I-3

R3年度

Goal(目標)	町有林の適切な管理
Plan(事業概要・計画)	町有林の適切な管理 SGEC森林管理認証の継続

R3年度

Do(実行)	R3実績額	286,000円
活動実績を示す指標		
①	森林管理認証審査回数	単位: 回, R2: 0, R3(計画): 1, R3(実績): 1, 対前年比(%): -
②		
③		
実施内容	町有林の適切な管理 SGEC森林管理認証の継続	

R3年度

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	持続可能な山づくりを目的とする上で、森林管理認証は林業経営の模範であり、引き続き町有林において取得を行う。					

R3年度

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由：森林管理認証森林として適切に町有林を管理している。				

R3年度

Action(改善)	R3実施内容の改善及び見直しの上、R4の方針・計画
町有林の森林管理認証を受ける上での施業履歴の整理等を紙媒体でおこなっている。 今後はGIS上での森林管理をおこなっていく必要がある。	

第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	外来魚の駆除	所属	山村再生課	SDGs	15
事業（細目）名	外来魚駆除事業	事業番号	2015		
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	環境整備	事業番号	連番	I-4

R3年度

Goal(目標)	外来魚の駆除活動を支援し、生物環境の保全を行う。
Plan(事業概要・計画)	千代川漁業協同組合による外来魚駆除実施の支援を行う。 教育機関（智頭農林高等学校、環境大学等）と連携した環境学習を行う。

R3年度

Do(実行)		R3実績額			61,575円	
活動実績を示す指標		単位	R2	R3(計画)	R3(実績)	対前年比(%)
①	外来魚の駆除	匹	141	194	194	138%
実施内容		10月から計5回の外来駆除活動を芦津で実施した。 この駆除には智頭農林高等学校の生徒も参加し、智頭町の外来魚が与える影響を学びつつ、駆除の手伝いを行った。				

R3年度

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		194匹の駆除を行った。 溪流釣りのエリアにはブラウントラウトが少なく、人が立ち入れない芦津国有林エリアが比較的数量が多く、今後中心に駆除する必要がある。				

R3年度

評価	B		方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価							
評価	B	評価理由： 県民等を巻き込みながら駆除を行う体制づくりが必要					

R3年度

Action(改善)	
R3実施内容の改善及び見直しの上、R4の方針・計画	
現状の電気ショッカーを用いたブラウントラウトの駆除は、駆除区域及び人員が限定的である。 そのため、ブラウントラウト釣りダービー（仮称）を企画し、釣り人にブラウントラウトを釣ってもらい、大きさを競うイベントの開催を支援する。	